

熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会（第2回）
（建築構造基準委員会・建築研究所熊本地震建築物被害調査検討委員会）
議事要旨

日時：平成28年6月30日（木）17-19時
場所：中央合同庁舎3号館 10階共用会議室

1 開会

開会にあたり、国土技術政策総合研究所建築構造基準委員会久保委員長、建築研究所熊本地震建築物被害調査検討委員会塩原委員長から挨拶があった。

2 議事「熊本地震の被害の状況について」

(1) 現時点における現地調査等に基づく被害状況報告等

- ① 建研、国総研による調査概要
- ② 学会等における主な調査一覧
- ③ 地震動の概要

①～③について、第1回以降に追加された新たな情報について、事務局より資料の説明があった。

- ④ 益城町の悉皆調査に基づく構造別・建築時期別の建築物被害状況

日本建築学会が実施した悉皆調査の情報と建築確認台帳等の情報を用いて行っている現時点での被害の集計作業について、事務局より説明があった。

- ⑤ 木造の被害状況報告
- ⑥ 鉄骨造の被害状況報告
- ⑦ 鉄筋コンクリート造の被害状況報告
- ⑧ 基礎地盤の被害状況報告
- ⑨ その他の被害状況報告

⑤～⑨について、構造別・分野別に、被害状況等の分析の中間報告として、被害の全体的な状況、被害の特徴に関する分析結果、今後の検討事項等について事務局より説明があった。

(2) 質疑応答

委員から、今回の報告及び今後の整理分析の進め方についての意見等が出され、第3回に向けて、引き続き被害要因の分析・精査の作業を進め、検討結果をとりまとめることとされた。主な意見等は以下のとおり。

(地震動・地盤・基礎関係)

- 地盤の影響があるのではないかと書かれている部分がある。傾斜地で、盛土、擁壁のようなものがあつたと考えられるが、その場合に地震入力がさらに増大されるということはあるのか。
- 資料3-2の図5の橙色の地域とうすい黄色の地域は性状が随分違うことになり、橙色は火山灰系である。台地とはいえ火山灰なので力学的な性質は良く分かっていない。是非調べてもらいたい。
- 資料3-2のP6の観測されたスペクトルをみると、灰色のKiK-net益城の線は赤色の線と比べると値が随分小さい。これくらいの差が地盤の影響で出てくるのかを地質の関係から調べてもらいたい。
- 資料4-2のスペクトルのデータは貴重である。被害との関係について分析をお願いしたい。合わせて建設年代ごとの被害の特徴も調べてもらいたい。
- 地盤種別2種と思われるところで被害が多くて、3種と思われるところで被害が小さいとい

うところが気になる。

- 地盤データは確保しておいた方がよいというのが委員の集約された意見だと思うので、中長期的にでも結構なので実施する方向で検討してもらいたい。
- 杭被害が調べられるような機会があれば、例えば解体撤去する時とか、そういう機会があれば是非調べてもらいたい。

(木造関係)

- 2000年以降に建設された建築物で倒壊した7棟のうち6棟は被害の原因がおおよそわかっているようだが、最初の1棟だけ分析中となっている。入力の影響を調べられるようであれば、検討を深めてもらいたい。
- 資料5-4のP9の木造の建物における地盤変状と被害の関係について、周りの建物の被害状況と合わせて分析してほしい。

(鉄骨造関係)

- 学校体育館で、屋根面改修をした時に既存ブレースを残す方法があるが、それに損傷が出たという例はあるか。
- 鉄骨造について、資料に示されているのは小規模のものが多いが、これは該当地域に大きな鉄骨造がなかったということなのか、あるいは被害がなかったということなのか。

(RC造関係)

- 資料7-2のP1の建物について、設計方法と被害との関係について確認してほしい。

(その他の被害分析関係)

- 避難所として使えなかった体育館はどれくらいあったかというデータはあるか。
- 被害がなかったのは、どういう理由で健全であったのか分かると今後役に立つと思う。

(原因分析以外の意見等)

- 今回のとりまとめにあたっては、数字がたくさん出てきて一般の方ははじめてみるとわかりにくいので、読みやすい資料になるよう検討してもらいたい。

(3) 今後の方針等について

今後のスケジュールは、9月12日(月)10:00~12:00、場所は未定で、改めて開催通知の連絡をする旨の説明が事務局よりあった。また、欠席した委員への連絡を含め、追加の意見等があれば7月8日(金)までに事務局に提出していただくよう事務局から説明があった。

3 閉会